

182 ゲツセマネ途上での説教(3)迫害の予告

ヨハネによる福音書 15 : 18~16 : 4

▶ヨハネによる福音書 15 : 18~27

18 「世があなたがた (→弟子たち) を憎むなら、あなたがたを憎む前にわたし (→イエス) を憎んでいたことを覚えなさい。

→ (リビング・バイブル) あなたがたは、世の人にひどく憎まれます。だが忘れてはいけません。あなたがたより先に、わたしが憎まれたのです。

→世：コスモス (ギリシア語)、サタンの支配化に置かれた神に敵対する組織化された社会

→ヨハネによる福音書 14 : 30

もはや、あなたがたと多くを語るまい。世の支配者 (=サタン⇔神) が来るからである。だが、彼はわたしをどうすることもできない。

→ヤコブの手紙 4 : 4 世の友 = 神の敵

神に背いた者たち、世の友となるのが、神の敵となることだとは知らないのか。世の友になりたいと願う人はだれでも、神の敵になるのです。

19 (もし) あなたがたが世に属していたなら、世はあなたがたを身内として愛したはずである。

だが、あなたがたは世に属していない。わたしがあなたがたを世から選び出した。だから、世はあなたがたを憎むのである。

→この世は、自分たちと同質なものは違和感を感じることもなく、受け入れやすい。しかし、この世が信者たちを憎む (阻む) のは、ただ多様性がないからだけではなく、信者に対して、自分たちとはどこか違う異質なもの (自分たちとは違う違和感、自分たちが除外されたような孤独感や疎外感、疎ましき等 / 不思議な魅力感) を感じ、心を閉ざし、逆に裁いてしまうからである (信者は、心が神の国にある、新しい不思議な喜び、希望、愛を持っている)。

20 『僕は主人にまさりはしない』 (→信者は、主イエスに倣って [イミタチオ・クリスティ *De imitatione Christi*]、僕となる必要がある。マタイ 10 : 24、ヨハネ 13 : 16) と、わたしが言った言葉を思い出しなさい。 (この言葉から、こんなことも言える。世の) 人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたをも迫害するだろう。 (しかし、世の人々が) わたしの言葉を守った (→耳を傾けた、従った) のであれば、あなたがたの言葉をも守るだろう。

→ (リビング・バイブル) 『使用人は主人より偉くはない』と言ったのを覚えているでしょう。わたしを迫害した人々があなたがたを迫害しても、何の不思議があるでしょう。ごく当然のことです。わたしの言うことを聞く人なら、あなたがたの言うことも聞くはずです。

→ (NIV) Remember what I told you: 'A servant is not greater than his master.' If they persecuted me, they will persecute you also. If they obeyed my teaching, they will obey yours also. 迫害した、いじめた

→ (NKJV) Remember the word that I said to you, 'A servant is not greater than his master.' If they persecuted Me, they will also persecute you. If they kept My word, they will keep yours also.

→①イエスを遣わした父なる神をこの世は知らない (21 節) ので、イエスを迫害する (憎む)。

②イエスを迫害する (憎む) 者は、その憎しみを弟子たちにも向け、弟子たちをも迫害する (憎む)。

③イエスの言葉を守る者は、弟子たちの言葉をも守る。

21 しかし人々は、わたしの名のゆえに、これらのことをみな、あなたがたにするようになる。わたしをお遣わしになった方を知らないからである。

→ (リビング・バイブル) しかし世の人は、わたしの弟子だというだけであなたがたを迫害します。わたしをお遣わしになった神を全く知らないからです。

→イエスを知らないこの「世」の人々が、イエスの弟子たちを迫害し、イエスと同様、弟子たちの何人か

は殉教の死を遂げる、とイエスは言っている。

22 わたしが来て彼らに（何も）話さなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが、今は、彼らは自分の罪について弁解の余地がない。

→（リビング・バイブル）わたしが来なくて、何も話さなかったのであれば、彼らは罪を問われなかったでしょう。しかし今はもう、罪の言いわけは許されません。

→イエスは、すべての人々が神に向かい、真理を信じる機会を与えるために来られた。多くの者はイエスの新しい教えを受け入れなかった。ここではイエスの教えに心を閉ざすことが弁解の余地もない罪とされている。

23 わたしを憎む者は、わたしの父をも憎んでいる。

24 だれも行ったことのない業を、わたしが彼らの間で行わなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが今は、その業を見たとえで、わたしとわたしの父を憎んでいる。

→（リビング・バイブル）わたしがあれほどのわざを行わなかったのなら、彼らは罪に定められることもなかったでしょう。けれども、わたしのわざをはっきり見たにもかかわらず、わたしとわたしの父を憎んだのです。

25 しかし、それは、『人々は理由もなく、わたしを憎んだ』（→詩編 35 : 19、69 : 5）と、彼らの律法に書いてある言葉が実現するためである。

→イエスは、御自身が謂れのない（＝濡れ衣の）偽りの告発を受けたとき、詩編 35 : 19 と 69 : 5 のダビデの言葉を思い起こされたのであろう。

→詩編 35 : 19

敵が不当に喜ぶことがありませんように。無実なわたし（ダビデ）を憎む者が／侮りの目で見ることがありませんように。

→詩編 69 : 5

理由もなくわたし（ダビデ）を憎む者は／この頭の髪よりも数多く／いわれなくわたしに敵意を抱く者／滅ぼそうとする者は力を増して行きます。わたしは自分が奪わなかったものすら／償わねばなりません。

→詩編 109 : 3

憎しみの言葉はわたし（ダビデ）を取り囲み／理由もなく戦いを挑んで来ます。

26 わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁解者、すなわち、父のもとから出る真理の霊（→聖霊）が来るとき、その方（→聖霊）がわたしについて証しをなさるはずである。

27（なぜなら）あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。

→（リビング・バイブル）わたしはあなたがたに、助け手、すなわち、すべての真理の根源である聖霊を遣わしましょう。その方は、父のもとから来て、わたしのことを語ってください。あなたがたもまた、わたしのことをすべての人に語らなければなりません。初めからわたしといっしょにいたからです。

▶ヨハネによる福音書 16 : 1~4

01 これらのことを話したのは、あなたがたをつまずかせない（→躓かせない：困難に出会い、挫折させない）ためである。

→（リビング・バイブル）これらのことを話したのは、これからどんなことが起こっても、あなたがたがくじけないためです。

02 人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る。

→ (リビング・バイブル) 会堂から追放され、いのちまでつけねられる身になることを覚悟しなさい。事実、あなたがたを殺すことで神への奉仕を果たすのだと、人々がとんでもない思い違いをする時が来ます。

→ユダヤ人指導者たちはイエスを信じるようになった者たちをユダヤ人共同体や会堂から追放した (ヨハネ 9 : 22、34、12 : 42)。ユダヤ人が同胞の会衆から追放されることは旧約聖書にも見られる (エズラ 10 : 8) が、キリスト者をユダヤ人会堂から追放することは、実際にはエルサレム神殿の崩壊後に起こった (AD85~90 年)。

→**会堂からの追放**と**殉教の死**

03 彼らがこういうことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。

→ (リビング・バイブル) 父をも、わたしをも知らない人々のやりそうなことです。

→父を知らない人たちは、イエスをも知らない。イエスを知らない人たちは、イエスの弟子たちの教えを受け入れない。

04 しかし、これらのことを話したのは、その時が来たときに (→迫害が現実起きた時に)、わたしが語ったということをあなたがたに思い出させるためである。」

→ (リビング・バイブル) いいですか。この警告をしっかりと心にとめておきなさい。迫害が現実起きた時、あわてふためかかないですむようにしなさい。今までこんなことを言わなかったのは、しばらくの間でも、いっしょにいてあげられたからです。

→イエスがこのような迫害の予告をした理由は、迫害が現実起きた時に、弟子たちが慌てふためくことがないようにという、イエスの弟子たちに対する配慮からでした。

【参考】十八祈禱文(祝禱)(シュモネー・エスレー)

ユダヤ教では、伝統的に、朝昼晩と 1 日に三度、起立して祈る (→立禱 : アミダーamidah)。本来は 18 項目の祈禱であったことから、「18 祈禱文 (祝禱)」(シュモネー・エスレーshemoneh - esreh) と呼ばれるが、後代には、発展して祈りの数は 18 から 19 に付加された。

一、私たちの父祖はあなたを賛美しました。アブラハムとサラ、リベカとイサク、ヤコブ、ラケルとレアは、畏敬の念であなたの御前に立ちました。私たちもまた、父祖の人生をとおして、あなたの真理を輝かせるすべての源である無限な存在であり、畏敬に満ち、意識や理解をも超える神であるあなたに向かって手を差し伸べます。あなたは父祖にとってそうであったように、私たちの助け、盾となってください。私たちはアブラハムの守護者、神であるあなたを誉めたたえます。

二、あなたの力は全世界を支えます。あなたは、命のないものに命を吹き込まれます。あわれみをもって生きるものを気づかわれます。あなたの限りない愛は、生命が死に勝利し、病めるものを癒し、疲れたものを支え、奴隷とされた者に自由を得させ、死者の信仰すら守られます。たとえようもない見事な輝きと力を有する存在は、あなたをおいて他に誰がおられるでしょうか。あなたは生と死を支配されます。あなたの存在は、魂に生命をもたらします。死により生命を取り戻される神であるあなたを誉めたたえます。

三、聖なる御方、その神秘もまた聖なるものです。聖性を求める者は生涯あなたを賛美します。私たちは、聖なる究極の神秘であり神であるあなたを誉めたたえます。

四、知性はあなたからの贈り物、聡明さはあなたからの輝きです。知識、洞察、理解において私たちが成長できますように。恵み深い意識の与え主、神であるあなたを誉めたたえます。

五、いま一度、あなたの真実の道を見出し信仰を信頼し、あなたに従い、あなたの存在の中に欠けるものがない姿となるよう私たちを助けてください。常に私たちの新しい旅立ちを助ける用意のある神であるあなたを誉めたたえます。

六、親の愛をもって私たちの過失を赦し、王のような寛大さをもって私たちの欠点を見逃してください。慈愛と赦しの神であるあなたを誉めたたえます。

七、私たちの苦しみをご覧ください。苦しみと闘っている私たちを支え、速やかに私たちを救い出してください。わが民の希望であり贖いをもたらす神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

八、おお神よ、私たちを癒し、健やかにお守りください。私たちが常にあなたを誉めたたえ、自ら役立つものになれるよう力づけてください。あなたは癒しとあわれみの源である故に、私たちの苦しみのすべてに真の癒しをお与えください。すべての癒しは神であるあなたから来ることを、私たちは誉めたたえます。

九、私たちのためにこの年を繁栄のうちに祝福してください。地上の富、巡り来る季節の周期が、私たちによき実りを豊かにもたらしますように。神であるあなたを、私たちは誉めたたえます。あなたへの賛美は、巡り来る季節の周期と同じくらい確かなものです。

十、雄羊の力強い角笛の響きのように、自由を響き渡らせてください。あなたの約束によって支えられる私たちの魂を高めてください。散り散りになった民が欠けるものがなく一つの民に戻れるように。道に迷った民を家に戻させる神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

十一、私たちのいにしえの正義の意識をよみがえらせてください。よみがえった叡智が本来の私たちの叡智の源となりますように。悲しみも嘆きも私たちの中から消え失せるように。あなたの優しさ、あわれみ、正義、思いやりが常に私たちの暮らしを支配しますように。思いやりと正義の神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

十二、敵意は陰を潜め、悪が朽ちることを。憎悪は止み、生あるうちに傲慢が速やかに消えますように。善を悪に勝利させる恐るべき力の主、神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

十三、あなたの恵みは、愛する人、正義の人、学識ある人、聡明な人、見知らぬ人、同じく私自身にも示され、あなたの正義が明らかにされますように。私たちが全員の一員に加えられますように。あなたに寄せる私たちの信頼が揺るぎないものとなるように。公正の力、私たちの信頼の根源の神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

十四、あなたの愛をいま一度、エルサレムから輝かせてください。ダビデの時代と同じようにそこにあなたの存在を知らしめてください。遠からず再建されるシオンをしっかり立たせ、とこしえにユダヤの希望の中心にしてください。エルサレムの造営者であり、神であるあなたを誉めたたえます。

十五、私たちの民の誰もが遠からず繁栄できますように。あなたの救いと私たちの解放を賛美し、困難に際しても毅然と威厳が保てるように私たちを助けてください。日ごと、終日あなたの救いを待ち望みます。御力によって私たちは苦境を切り抜け、力強く活動できます。御力を授けてくださる神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

十六、私たちが叫びの声をあげるとき、あわれみをもってこの声を聞いてください。私たちがあなたに向かって手を差し伸べるとき、愛をもってあなたの民に耳を傾けてください。むなしいものに目を向け、あなたから目をそらすことのないようにしてください。私たちの祈りを愛おしまれる神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

十七、あなたの中であなたの民が喜びを得ることができるよう。私たちは固く敬虔な心をもって父祖の賛美に心を燃やすことができますように。あなたが私たちの賛美を見出し、あなたの民を受け入れ、愛おしまれるように。とこしえにシオンからその御光を放たれる神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

十八、あなたは父祖の神であったように古今をとおり、今も私たちの神であります。あなたは私たちの人生の堅固な礎、私たちは喜びと愛につつまれており、あなたのものです。私たちの人生はあなたの御手の中で安堵でき、私たちの魂はあなたの思いやりに委ねられます。感嘆する私たちの意識、あなたの奇跡

と思いやりへの賛美は、毎日、夜明け、たそがれ時、昼時のあなたへの挨拶です。穏和にして唯一の御方、あなたの思いやりは無窮です。思いやりに満ちた唯一の御方、あなたの愛は永遠、私たちの絶えざるあなたへの希望です。感謝、喜び、真実によって生きとし生ける者すべてを、あなたに向き合わせてください。ああ、神よ、私たちをお守りください。私たちを支えてください。ものごとの善の拠り所であり、神であるあなたを私たちは誉めたたえます。あなたに祈ることは喜びです。

十九、すべてに平和をそそがれる神は、すべての人への愛と慈しみによって、生命と善によって、あなたのユダヤの民に安らぎを与えてくださいます。あらゆる時機、あらゆる時節に思いやりをもって、私たちを心穏やかに祝福してください。祝福と平和の神であるあなたを私たちは誉めたたえます。

出典：『ユダヤ人の生き方ーラビが語る「知恵の民」の世界』

ハロルド・S クシュナーHarold S. Kushner (原著)、松宮克昌(翻訳) 創元社 P.190~194



【一言】ユダヤ人のノーベル賞受賞者は多い。

ユダヤ人は世界の人口の0.2%以下を構成するに過ぎないにも関わらず、ノーベル賞の授賞者の約20%がユダヤ人で、6種類の賞（生理学・医学賞、物理学賞、化学賞、文学賞、平和賞、経済学賞）のすべてを受け取っている凄い民族であるが、これも神への感謝への想いから来ているのかもしれない。また、ユダヤ人は迫害の歴史のなかで、「人が生きている限り、奪うことが出来ないものがある。それは知識である。」という言葉を残している。故郷を離れ、新たな土地に同化してもまた逃げなくてはならないという過酷な状況を経験してきたユダヤ人にとって、「知識」が自分たちの未来を切り開く唯一の手段だったことがノーベル賞受賞者が多い理由として考えられる。

ユダヤの格言より

賢人になる七つの条件

1. 自分より賢い人がいるときは沈黙。
2. 人の話の腰を折らない。
3. 答えるときにあわてない。
4. 常に的を射た質問をし、筋道だった答えをする。
5. まずしなければならぬことから手を付け、後回しにできるものは最後にする。
6. 自分が知らないときはそれを認める。
7. 真実を認める。

知識について

- ・知識は水に似ている。高いところから低いところへ流れる。
- ・人が生きている限り、奪うことが出来ないものがある。それは知識である。
- ・耳と耳の間に、最大の資産がある。
- ・あなたが知識を増やさないということは、実は知識を減らしていることになる。
- ・知識は浅いとすぐ失われる。

その他

- ・何も打つ手がないときにも、ひとつだけ必ず打つ手がある。それは、勇気を持つことである。
- ・相手の立場に立たないで、人を判断するな。
- ・自分の力ではどうにもならないことは、心配するな。
- ・神は超えられない試練を人には与えない。
- ・利害関係ができたときにはじめて、友人かどうかが分かる。